気楽にできる環境政策を

小林 憲人 議員



問 広く市民にゼロカーボンシティを涵養していくうえで、マイボトルの推奨やオリジナルボトルの開発をしては。

答 環境基本計画及び一般廃棄物処理計画の策定の中で、議論を進めていきたい。

こども誰でも通園制度をより良く

問 保護者の喜びの声がある一方、現場を担う保育士からは負担が増えた、リスクが大きいという声がある。認識は。

答 対応の困難さや面談などの調整の難しさがある。事務負担の軽減について、今後の改善が必要と考えている。

老障介護の対応に早期対応を

問 新高額障害福祉サービス等給付費の対象者に、アウトリーチをかけていくべきでは。

答 手続が困難になる前の段階から、積極的に関わっていくアウトリーチの取り組みについて検討していく。

生き生きと働ける環境を

問 教職員の負担軽減や教職員を守るために、スクールロイヤーの配置をしては。

答 現場における相談内容や件数の動向、費用対効果など、多角的な視点から慎重に見極める必要がある。

旧江戸屋の利活用計画

山田 敏夫 議員

問 文化財としての旧江戸屋の利活用計画は。

答 旧江戸屋の建物は、明治初期の建築と伝えられ、明治26年に作られた旧江戸屋の家相図にも描かれる主屋と穀蔵の2棟と、個人所有となっている文庫蔵1棟の3棟で構成されている。

県内でも貴重な明治時代の景観を残す歴史遺産の文化財であると認識しており、今後、文化財の指定と併せて福岡河岸一帯での保存整備、活用を図っていきたい。



旧江戸屋

新河岸川沿いの斜面林の管理

問 貴重な緑の斜面林が雑木などで密集し、荒れた状態で不法投棄の場ともなっている。適切な管理をしては。

答 定期的な樹木剪定や管理上支障となる枯れ枝や雑木の処理などを行っている。

また、緑地公園全体の整備計画を策定し、専門家の知識や意見を取り入れるなどの対策が必要と考えている。

福岡中学校改修工事

原田 雄一 議員

問 本来は議会の議決後に工事が着手されるはずだが、議決前に工事が着手された経緯は。

答 国土交通省の設計変更ガイドラインを受けて工事主管課では変更契約の手続を行ってきた。変更契約の議決が必要な工事であってもガイドラインの運用が適用されるとした解釈の誤りが議決前着手の一因となった。

問 福岡中学校以外での議決前工事は。

答 調査したところ15件あった。

問 市民へ周知は。

答 不適切な事務執行について、市長の謝罪を含めホームページで公表した。

大井・苗間第二地区の将来

問 現在の苗間地区の道路は、狭あいで曲がりくねり大変危険で通りにくいが区画道路を設置しなくてよいのか。

答 権利者と調整を進めてきたが、一部の権利者の承諾にとどまり、他の権利者からの承諾を得られず、地区施設道路を位置付けることが困難となった。

問 大井・苗間第二地区は、都市計画道路を廃止して区画道路も設けないで開発が進み、大丈夫なのか。元県都市整備部長である副市長の見解は。

答 今後については地域の特性をみながら、地元の意見を踏まえ考えていく。



議決前工事の普通教室

ギカイの動き

議会運営委員会視察調査報告

さらなる議会活動の活性化

議会運営委員会では、7月15日及び16日の日程で石川県加賀市と能美市を訪れ、議会活動の活性化についての視察研修を行いました。

加賀市議会では、住民参画を促すため、対象別議会やオンライン意見交換会、議会だより市民モニター制度、市民アンケート、出前講座を実施していた。また独自の取り組みとして計画・手順や経過・実行・検証・改善を組み合わせたPPDCAサイクルを導入し、議会改革や議会活動の検証・改善を行っていた。

能美市議会では、議員間討議を議会基本条例に明記して行っていた。また電子採決やオンライン委員会の開催など議会DXを推進し、動画配信についても積極的に取り組み、本会議のライブ配信のほか、意見交換会の様子を要約し配信しているということだった。さらに地元紙やケーブルテレビとも連携し、市民に向けて積極的に議会情報のアプローチを行っていた。

両市議会において議会広報紙が市民の声を反映し、カラー化や写真、市民記事を充実させた魅力的なものとなっていた。

本市議会も市民参加、情報公開、運営効率化、議会だよりの充実に努めていきたい。



加賀市での視察の様子

市民・都市常任委員会視察調査報告

上下水道インフラの老朽化対策と農業振興を学ぶ

市民・都市常任委員会では、7月22日及び23日の日程で福島県会津若松市と会津美里町を訪れ、上下水道インフラの老朽化対策と農業振興について視察研修を行いました。

会津若松市では、人口減少に伴う水道使用量や料金収入の減少、施設の老朽化、技術者不足などヒト・モノ・カネの課題について説明を受けた。対策として、AIを用いた管路劣化度診断やIoTを活用した監視型漏水調査、高校生への出前講座、広域連携などに取り組み、効率的な施設更新や有収率の改善を進めていた。

会津美里町では、水稲と高収益な園芸作物を組み合わせた複合経営が行われていた。圃場整備では、営農経費約28％の軽減、作物生産額約24％の向上を目指していた。また、担い手不足や農家の高齢化などに対応するため、新規就農者への補助や地域おこし協力隊の受入れ、スマート農業を推進していた。地域計画はワークショップ形式で策定し、集落ごとの現状や課題を共有していた。

今回の視察で学んだことを、本市でできることから生かしていきたい。



会津若松市での視察の様子